

## 平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成26年4月22日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 179人 国語B 176人

② 数学A 175人 数学B 175人

#### 5 留意事項

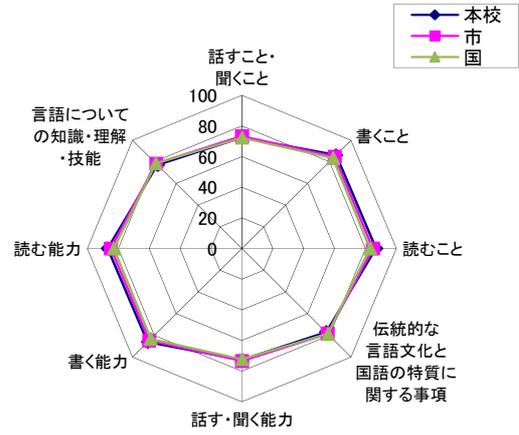
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立若松原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

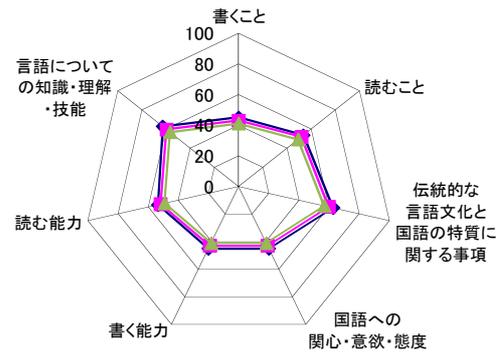
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.6	73.4	72.3
	書くこと	86.2	84.9	83.4
	読むこと	86.9	84.8	82.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	78.5	78.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	72.6	73.4	72.3
	書く能力	86.2	84.9	83.4
	読む能力	86.9	84.8	82.9
	言語についての知識・理解・技能	77.1	78.5	78.7



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	45.1	43.0	41.0
	読むこと	53.6	51.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.8	59.7	56.8
観点	国語への関心・意欲・態度	45.1	43.0	41.0
	話す・聞く能力			
	書く能力	45.1	43.0	41.0
	読む能力	53.6	51.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	62.8	59.7	56.8



## ★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○国語に対する意欲や関心が高く、必要性も充分感じている。読書好きも多い。資料を読んだり、意見を書いたり、発表したりする際にも工夫をしている生徒が多く意欲的である。

●国語好きが7割以上いるが、苦手意識を持っている生徒も3割弱いる。また、アンケートでは良好ではあるが、実際理解では不十分な点が見られるため意識と実際の面ではギャップがあるように思われる。

生徒の意欲をさらに高め理解が深まるよう、授業内容を検討し発問の仕方や展開を工夫していきたい。

## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

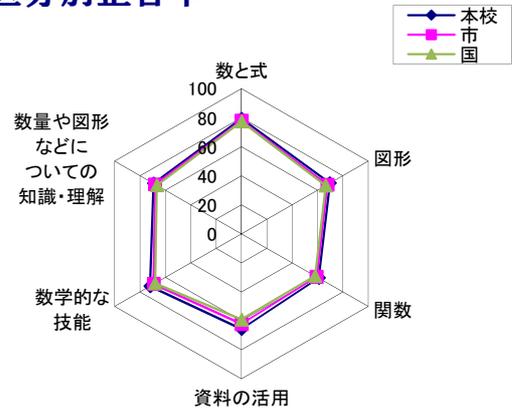
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「目的に応じて資料を活用して話す。」という点では、全国を上回ることができた。 ●「話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす。」という点では全国を下回った。	・深い話し合い活動ができるよう、班別活動や話し合い活動を多くする。
書くこと	○「心情が相手に伝わるように書き加える。」ことや「集めた材料を整理する。」という点では、全国を大幅に上回ることができた。 ●「叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える。」という点では全国を下回った。	・語彙力を高めるために、辞書の活用や言葉の言い換えを意図的に授業の中に組み入れる。
読むこと	○「登場人物の心情や行動を読み内容を理解する。」という点や「抽象的なもの」や「登場人物の言動の意味を考え、理解する」という点では、全国を大幅に上回ることができた。 ●「複数の資料から必要な情報を読み取る。」という点では大幅に全国を大幅に下回った。	・プリントを用いながら、繰り返し指導していくとともに、複数の教材を比べる作業を取り入れた。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「根拠を明確にして自分の考えを書く。」という点では全国を上回ることができた。 ●「表現技法について理解」したり「落語に登場する人物の姿を想像する。」という点では全国を下回った。	・授業中に細やかに表現の工夫や文章の内容をイメージする練習を繰り返す。

# 宇都宮市立若松原中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

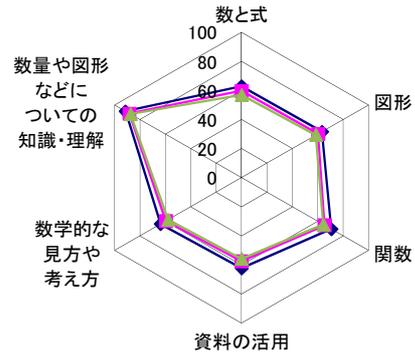
### 【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	79.3	78.0	77.4
	図形	69.7	67.8	66.4
	関数	60.9	59.3	58.0
	資料の活用	65.6	62.2	59.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	72.2	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	69.3	68.2	66.8



### 【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と式	62.9	59.8	56.9
	図形	63.4	60.3	58.6
	関数	70.7	65.5	64.4
	資料の活用	62.3	57.5	55.9
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	63.8	59.6	57.9
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解	91.4	88.4	87.5



## ★数学に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○数学の重要性を理解して、学力を身につけたいと考えている生徒が多い。授業にも意欲的に参加できている。  
 ●数学を生活の中で活用できていると考える生徒が少なく、将来に向けて学習をしているようである。生活のどのような場面で、数学が使われているかを気づかせていけると、更なる学習意欲の向上が期待できる。

## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	OAでは国と比べて1.9ポイント高く、Bでは6.0ポイント高く、概ね良い結果である。 ●連立方程式では国と比べて15ポイント低い結果だった。	・概ね理解されており、県、国の平均を超えているが、連立方程式などの計算や累乗の計算をする力を身につけてさせたい。
図形	OAの回転移動、Bの図形の性質を用いて説明する、角の大きさを求める問では10%以上、平均が上回っている。 ●特に、下回るものではないが、体積の比較が苦手である。	・立体の体積では実験等を通して実体験をもとに理解を深めていく。
関数	OA、Bともに国の平均点を上回っている。特に、反比例や比例の関係を式に表すことはよくできている。 ●2つの数量関係を読み取り、数学的に説明することを苦手としている。	・問題から、2つの数量を読み取る力、また、その関係を説明する力を身につけさせたい。
資料の活用	OAの平均正答率は全国平均より6.5%上回っている。Bの平均正答率は全国平均より6.4%上回っている。 ●資料の読み取りは概ね良好であるが、その活用がやや苦手である。	・理由を確率を用いて説明する力を身につけさせたい。また、資料を正しく読み取る練習を反復して行っていきたい。

## 宇都宮市立若松原中学校第3学年生徒質問紙調査

### ★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○自己について、「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」などの質問に対しての肯定的回答の割合が全国平均、栃木県平均を上回っている。

○家庭での生活について、「家の人と学校での出来事について話すか」の質問で肯定的回答の割合が全国平均を上回っている。

○学校生活について、「学校に行くのは楽しいと思うか」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあるか」などの質問に対し、肯定的回答の割合が全国平均、栃木県平均を上回っている。

●授業について、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか」という質問に対し、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の回答が高い一方で、「授業の中でわからないことがあったら、どうすることが多いか」という質問に対しては「その場で先生に尋ねる」という回答が全国平均、栃木県平均を下回っている。今後、生徒に質問をすることの大切さを伝えるとともに、定期テスト前の学習相談などを繰り返しおこなっていく。

●家庭学習について、休日の学習では「4時間以上勉強している」「3時間以上、4時間より少ない」という回答の割合が全国平均、栃木県平均をともに上回っているが、「家で宿題をしている」「家で学校の予習をしている」などの質問に対しての肯定的回答の割合が全国平均を下回っている。今後、宿題や予習の必要性を繰り返し伝え指導していく。